クラシックギターの歴史

●ギターの発祥：紀元前 1900 年～1800 年頃

ギターの歴史はかなり古いようで、 弦楽器の起源を考えると紀元前 1900 年～1800 年頃、バビロニア（今のイラク）のレリーフ に描かれた絵画が残っているようです。その内容は、人工的に作られたと思われる胴体に串状の棹を刺して、そこに弦を張り、ピックのようなバチで 爪弾かれていたと考えられます（ネフェルと呼ぶ楽器）。これが弦楽器の起源のようです。メソポタミヤ、エジプトの古代文明の遺跡、テラコッタや彫刻にはギターに似た、胴と棹を持った弦楽器が見られます。

ネフェル

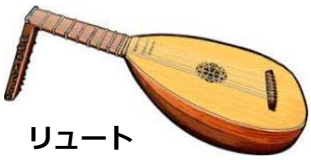
●ギターの先祖：古代ギリシャの楽器「キタラ」

諸説ありますが、古代ギリシャの楽器「キタラ」と考えられています。この「キタラ」がギリシャ神話に出てくる“アポロ神”の楽器という説もあります。
また、ギターの祖先と言われる弦楽器の中に、226 年 から 651 年頃まで存在していたペルシャのササン朝に誕生した「バルバット」があります。「バルバット」はその後トルコやアラブに伝わり、「ウード」という楽器に変化し、親しまれるようになりました。ウードは様々な楽器に変容し、 シルクロードを通って東へ行くと中国の「ピパ」や日本の「琵琶」になり、十字軍の遠征などで西へヨーロッパに伝わると「リュート」が誕生しました。

キタラ

●「リュート」の隆盛： ルネッサンス期からバロック期

西へ伝わったリュートは、「ルネッサンスリュート」、「バロックリュート」と言われることからも分かるようにルネッサンス期からバロック期にかけてヨーロッパ各地で興隆しました。バッハもリュートのための曲を残しています。



リュート

現代のギターは 1 弦、 2 弦と数えますが、当時のギターやリュートは響きを増幅させるために同じ音またはオクターブ違いを複弦で張って 1 コース、 2 コースと数えます。 初期ルネサンスの 6 コースのものから時代とともに弦の数も増え、14 コースバロックリュートやテオルボ、キタローネなど大型のものは 20 数本もの弦を持つものまで出てきました。

バロックギター

フランスではリュートではなく国王の趣向で「5 コースバロックギター」が大流行しました。
しかし、バロック音楽の終焉とともにリュートは姿を消して行きます。

●リュート・ビウエラの衰退とギターの誕生：　１６世紀～１８世紀

ビウエラ

ルネサンスギター

イタリアを中心にヨーロッパで隆盛を誇った「リュート」、スペインで発展した胴の平らな「ビウエラ」から１６世紀～１８世紀の「ギターラ」が誕生していきます。弦は復弦で４コース、５コースと定まっておらず、サウンドホールも透かし彫りの形でした。
ルネサンス時代には主に和音をかき鳴らして伴奏に用いられ、宣教師たちが大航海の末ハワイに伝えてウクレレに成ったとも言われている４コースの「ルネサンスギター」が登場しました。
この頃には、ミラン、ナルバエス、アロンソ、ムダーラなど現代のギターのレパートリーとなっている音楽家もいます。
隆盛を極めたギター族の楽器も１６世紀末頃より鍵盤楽器の「クラビコード」やバイオリン族の楽器の発展により次第に衰退していきます。その後から、５コース復弦の「ギター」がリュート、ビウエラに代わって発展し、音楽の内容も高度になっていきます。

●ギターの黄金時代：１８世紀末から１９世紀初頭

１８世紀末から１９世紀初頭はギターの黄金時代といわれ、アグアド、ソル、ジュリアーニ、カルリ、カルカッシ、コストなどの大ギタリストを輩出し、バイオリンの鬼才パガニーニもギター曲を作曲し、シューベルト、ウェーバーは歌曲や室内楽に、ロッシーニはオペラにギターを活躍させました。

アクアド

ソル

ジュリアーニ

カリル

カルカッシ

コスト

この頃のギターは６弦で丸いサウンドホールを持ち現代のギターの基礎となる型に発展しています。これには「巻弦の発明」という技術的な要素があったといわれています。これにより響きを増し、復弦から６コースの単音弦という現代のギターの形になりました。この頃のギターを１９世紀ギターと呼び、イギリスのラコート、フランスのパノルモが代表的な制作者として知られています。ボディが現在よりもかなり小ぶりなギターです。

●クラシックギターの完成：１９世紀後半

１９世紀後半に、スペインのアントニオ・デ・トーレス（1817-1885）により現在のクラシックギターの構造の基礎が作られました。現在のクラシックギターのボディの大きさや弦長 650mm という基準は彼によっています。トーレスのギターは、コンサートホールでの演奏に耐えうる音量と表現力を持っていました。近代ギター音楽の父とも呼ばれるフランシスコ・タルレガ（1852-1909）はトーレスのギターを愛用してギター音楽が再び脚光を浴び、アンドレス・セゴビア（1892-1987）、ナルシソ・イエペス（1927-1997）などのクラシックギターの巨匠たちによって世界中に広まりました。
セゴビアの愛奏した銘器ハウザーはクラシックギターの完成されたモデルとして、その後の制作家にも大きな影響を与えています。